

『イグノーベル賞 日本人が15年連続受賞』

「イグノーベル賞」をご存じの方も多くいらっしゃると思います。この賞はノーベル賞のパロディとして「人々を笑わせ考えさせた業績」に与えられるもので、1991年にマーク・エイブラハムにより創設されました。

毎年9月～10月に「人々を笑わせ、考えさせる業績」や風変わりな研究、社会的事件を起こした10の個人やグループに対し授与されます。皮肉や風刺が理由で受賞される場合もあり、例えば

- ・「水爆の父」として知られるエドワード・テラーは「我々が知る平和の意味を変えることに生涯にわたって努力した」として平和賞
- ・フランスのシラク大統領は「ヒロシマの50周年を記念し、太平洋上で核実験を行った」として平和賞
- ・2020年には「新型コロナウイルスの世界的流行で、政治家が学者や医師よりも生死に影響を及ぼすことを知らしめた」として米国のトランプ大統領やブラジルのボルソナーロ大統領ら9か国の首脳に医学教育学賞が受賞されました。

授賞式にはプレゼンターとしてノーベル賞受賞者も多数参加するそうです。受賞者の旅費と滞在費は自己負担で、授賞式の講演では聴衆から笑いをとることが要求されます。

賞が創設されて以来、日本は繰り返して受賞しイグノーベル賞常連国になっており、継続的に受賞しているのは日本以外にはイギリスということです。創設者によれば、多くの国が奇人・変人を蔑視する中で、日本とイギリスは誇りにする風潮があると共通点を上げています。

これまでの日本人受賞研究の一部を紹介します。

1992年 医学賞

「足のにおいの原因となる化学物質の特定」という研究

1995年 心理学賞

ハトを訓練しピカソの絵とモネの絵を区別させることに成功

1997年 経済学賞

「たまごっち」により数百万人分の労働時間を仮想ペットの飼育に費やさせたこと

1999年 化学賞

夫のパンツに吹きかけることで浮気を発見できるスプレー「Sチェック」を開発

2002年 平和賞

犬語翻訳機「バウリング」の開発によって人と犬に平和と調和をもたらした業績

2003年 化学賞

「ハトに嫌われた銅像の化学的考察」



兼六園にある、ハトが寄り付かない日本武尊の銅像



金沢大学
廣瀬名誉教授

2015年 医学賞

キスでアレルギー患者のアレルギー反応が減弱することを示した研究

2020年 音響学賞

ヘリウムガスを使うとワニのうなり声も高くなることを発見

そして今年2021年は動力学賞

京都工芸繊維大学の村上助教が、スマートフォンを見ながら歩く人がいると、集団全体の歩行速度が遅くなることを実験で突き止め、動力学賞を受賞され、日本人として15年連続を達成されました。



このようなユーモア感覚のある研究ができる柔軟さを見習いたいものです。